

5 国内銀行の貸出動向

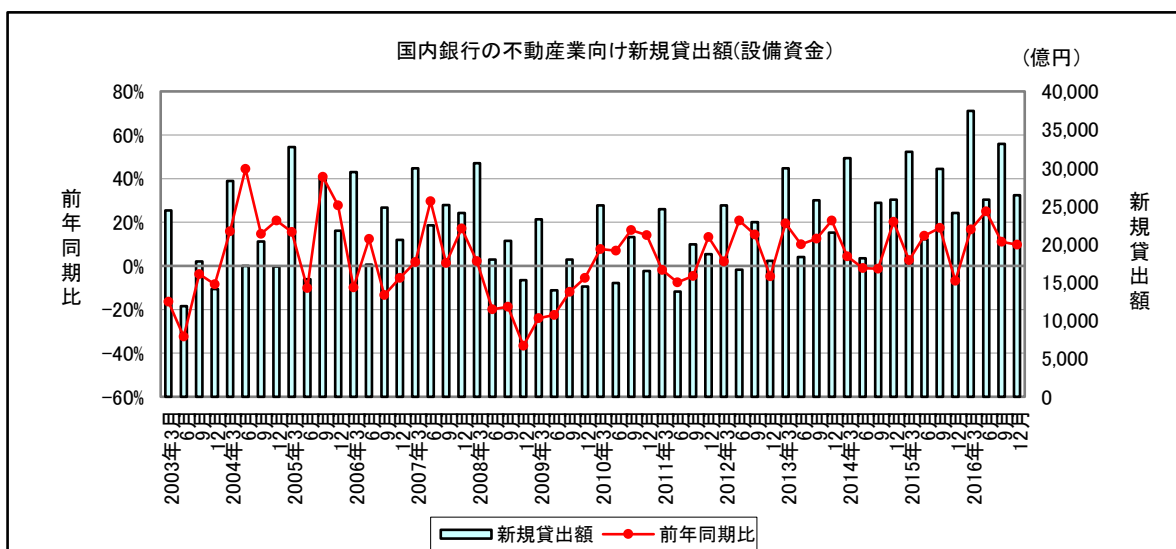
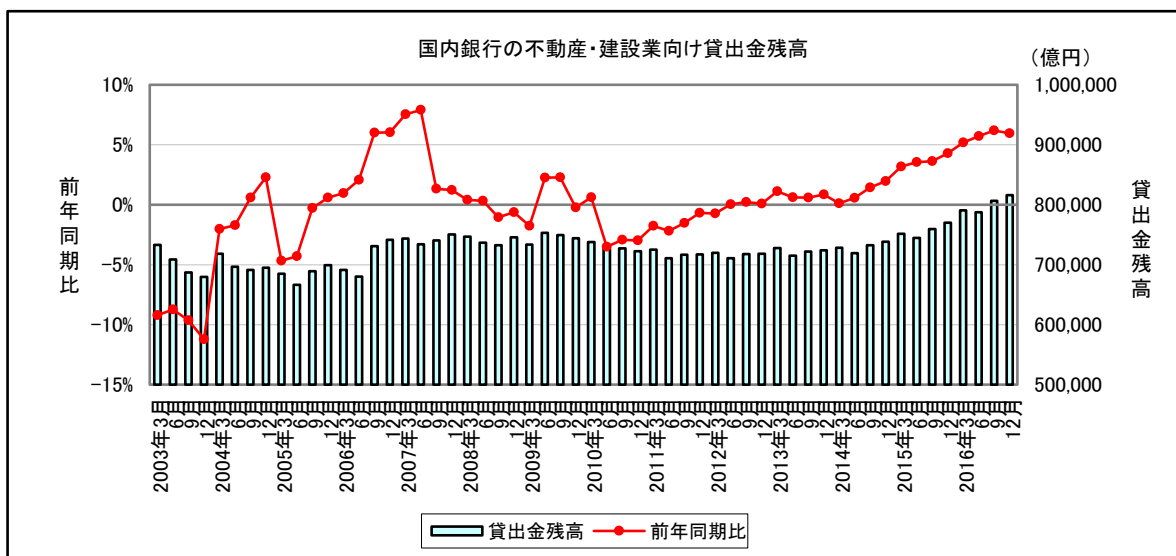
【貸出金残高・新規貸出額】

○貸出金残高

- ・12月期の建設業向け貸出金残高は、前年同期比0.03%増の11兆2,354億円となり、2四半期連続して前年同月を上回った。
- ・12月期の不動産業向け貸出金残高は、前年同期比7.0%増の70兆3,592億円となり、19四半期連続して前年同期を上回った。

○新規貸出額(設備資金)

- ・12月期の不動産業向け新規貸出額(設備資金)は、前年同期比9.7%増の2兆6,416億円となり、4四半期連続して前年同期を上回った。



出典：日本銀行「貸出先別貸出金」

注1) 貸出金残高は、期末残高。

注2) 新規貸出資金は、設備資金と運転資金の2種類がある。不動産業については、貸しビル・貸家建設用地資金など貸貸を目的とする貸出資金は設備資金、分譲土地購入および分譲住宅建設用の貸出資金は運転資金となる。

注3) 各出典における最新時点の公表値により作成したものにつき、今後各出典元によるデータ変更に伴い、変更されることがあります。

【貸出態度】

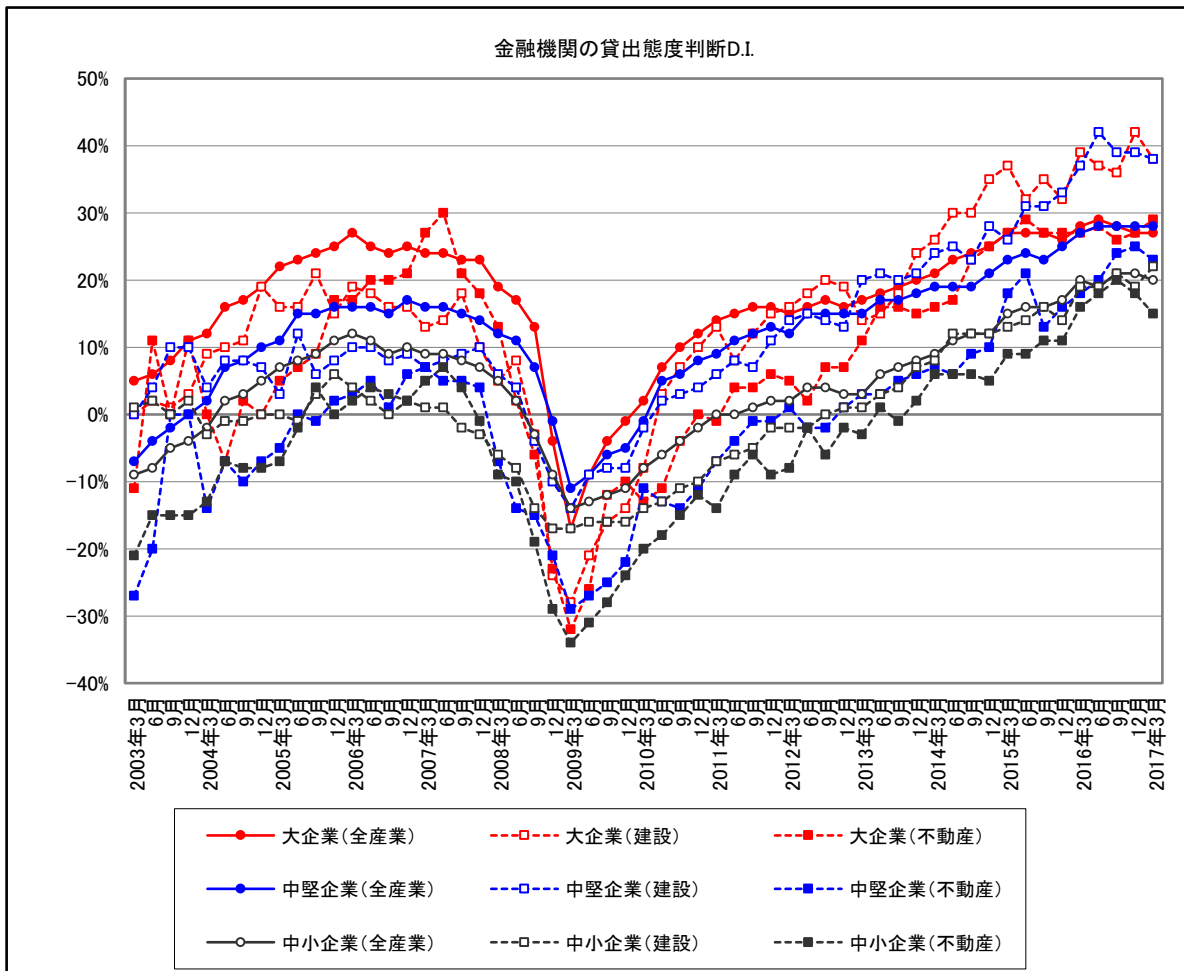
○全産業

・2017年3月期の全産業の貸出態度判断D. I. は大企業でプラス27%ポイント、中堅企業でプラス28%ポイント、中小企業でプラス20%ポイントとなっており、2016年12月期と比較して大企業で横ばい、中堅企業で横ばい、中小企業で悪化となった。

○建設・不動産業

・2017年3月期の建設業の貸出態度判断D. I. は大企業でプラス38%ポイント、中堅企業でプラス38%ポイント、中小企業でプラス22%ポイントとなっており、2016年12月期と比較して大企業で悪化、中堅企業で悪化、中小企業で改善となった。

・2017年3月期の不動産業の貸出態度判断D. I. は大企業でプラス29%ポイント、中堅企業でプラス23%ポイント、中小企業でプラス15%ポイントとなっており、2016年12月期と比較して大企業で改善、中堅企業で悪化、中小企業で悪化となった。



出典：日本銀行「全国企業短期経済観測調査」

注) 数値は、回答結果をもとに、「緩い」比率－「厳しい」比率として算出

大企業(資本金10億円以上)、中堅企業(同1億円以上10億円未満)、中小企業(同2千万円以上1億円未満)

2010年3月期以降、業種分類の変更により、「建設・不動産」の統合区分取り止めのため、

「建設」および「不動産」の区分を提示。